

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【日進北小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策	
知識・技能	基礎・基本となる知識・技能の習熟と、習得した知識・技能を活用して進める探究的な学びを、両輪として学習を進めていく。その中で、知識・技能を習得するために、漢字や計算ドリル、ドリルパーク等を活用した反復練習、各学習の最初や最後の時間に学習内容を振り返る時間の確保、朝学習の時間を活用した基礎・基本の定着を図る学習活動の設定を、更に充実させていく。	
思考・判断・表現	次年度も引き続き、校内研修を中心に探究的な学びの充実を図っていく。児童が自ら学びたいという意欲をもって課題を立てたり、友達と協働して学習を進めたり、基礎・基本として習得した知識・技能の活用したりする場面を意識した学習過程を設定することを通して、思考力・判断力・表現力等を育てていく。また、自分の考えをつくることができるようにするために、文章や図、グラフ、動画等から必要な情報を読み取る力も身に付けていくようにしたい。	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<p><学習上の課題> 語句の使い方や計算の技能など、基礎・基本の定着が必要な場面も見られ、更なる習熟が必要。</p> <p><指導上の課題> ドリルパークやミニテストを活用し、多様な形式の課題を通して、知識・技能の更なる定着を図る。</p>	⇒ 漢字ドリルや計算ドリル、ドリルパークなど、多様な形式の課題に取り組ませる。【毎週木曜の朝学習や授業の最初の5分に実施】 語句の使い方や計算の技能を習得させる場面での指導を充実させ、基礎・基本を定着させる。【各教科の授業内に実施】 自己評価シートの方策として、基礎・基本の定着についての内容を入れ、どの教職員にも意識させる。【通年】
思考・判断・表現	<p><学習上の課題> 分かったことや調べたことをもとに、他者と協働したり自分なりの考えを示したりすることが難しい。</p> <p><指導上の課題> 「じ・し・ゃ・く」を生かしつつ、自ら課題を立て、課題解決に向けて自ら学ぶ学習過程の定着を図る。</p>	⇒ 文章からの読み取りだけでなく、図やグラフ、動画などから必要な情報を読み取ることができるように指導する。【各教科の時間内に実施】 児童自ら設定した問いを解決するために、適した資料を選択して調べたり、自分なりの考えを示したりする学習活動を設定する。【各学期内に1度以上実施】 一人一授業以上の授業公開により、指導技術の共有化、協働的な学びの充実はかかる。【通年】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	B	各種ドリルやミニテスト、ドリルパークを活用し、様々な問題に取り組ませることができた。昨年度と同程度の正答率であり、語句の使い方や計算の仕方等、各教科の基礎・基本となる知識・技能の定着に一定の成果があったといえる。しかし、グラフの読み取り、地図記号の理解、「エネルギー」を柱とする領域の内容に関する理解等、基礎・基本の定着が至らない内容もあり、今後も継続して取り組んでいく。
思考・判断・表現	B	校内研修を中心に、「じ・し・ゃ・く」のサイクルを生かした学習過程が定着してきた。特に児童自ら課題を設定し、自分なりの考えを表現する探究的な学びについて、多くの実践を積み重ねることができた。その結果、自分の考えを表現する力を向上させることができた。友達との考えを大切にしたり、話し合う活動を通して考えを深められたりすることができていると答える児童も多いことから、今後も自ら学ぶ学習過程の充実を図っていく。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の調査では、図や矢印を用いた語句と語句との関係の表し方を理解したり、漢字を正しく使ったりする問題の正答率がやや低い。算数の調査では、学習指導要領の領域「C 測定」に関する、問題の解決に必要な数量を見いだす求め方を記述したり、はかりの目盛りを読んだりする問題の正答率がやや低い。そのため、語句の使い方や目盛りの読み方などの基礎・基本の定着を、引き続き図っていく。	
思考・判断・表現	国語の調査では、事柄の順序を考えて、適切な言葉を書き抜いたり、発言の空欄に当てはまる内容を選択したりする問題の正答率はやや高い。しかし、国語、算数の調査ともに、記述式の問題に対する無解答率がやや高い傾向にある。そのため、日常から自分なりの考えをもたせ、表現させる学習活動を設定し、さらに児童の考えを価値付けていく必要がある。校内研修等により、教職員全体で取り組めるよう、周知し、実践していく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、多くの学年で課題が見られた。漢字を正しく使ったり、文中で使われる言葉の関係を理解したりすることが少し難しいと考えられる。算数については、どの領域においても昨年度と大きな変化は見られなかった。語句の使い方や計算の技能を習得させる場面を充実させることで、一定の成果は見られるものの、正答率が例年より低下している設問もあり、更なる習熟が必要だと考えられる。	
思考・判断・表現	国語「書くこと」において、複数の学年で向上が見られた。校内研修を中心に、自分の考えを表現する学習活動を、年間通して設定してきた成果であるといえる。今後も継続して、このような学習活動を取り入れていく。「話すこと・聞くこと」「読むこと」においては、昨年度と比較して、大きな変化は見られない。算数「データの活用」において、全ての学年で課題が見られた。1つあるいは複数のグラフから、情報を正しく読み取ることに関難さを感じていると考えられる。軸の意味や数値の変化を読み取ったり、複数のグラフから読み取ったことをまとめたりする活動を充実させていく。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	朝学習の時間や授業の最初の5分などを活用して、各種ドリルやドリルパークなど、多様な形式の課題に取り組ませることができた。自己評価シートの方策にも取り入れ、基礎・基本の定着を図る指導を充実させているが、全国学力・学習状況調査の分析から、未だ課題がみられるため、今後も基礎・基本の定着を図る指導をさらに充実させていく。	変更なし
思考・判断・表現	B	学校課題研究と関連させ、一人一授業の授業公開を行った。その中で、児童が問いを設定したり、学習の見直しを立てて児童自ら学んだりする学習活動が設定され、協働的な学びの充実につながった。今後も、資料を読み取ったり自分なりの考えを示したりできるように、様々な学習活動を取り入れた授業公開を継続して行っていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)